

【漁況】

[マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成26年は14万6千トンとなりました。

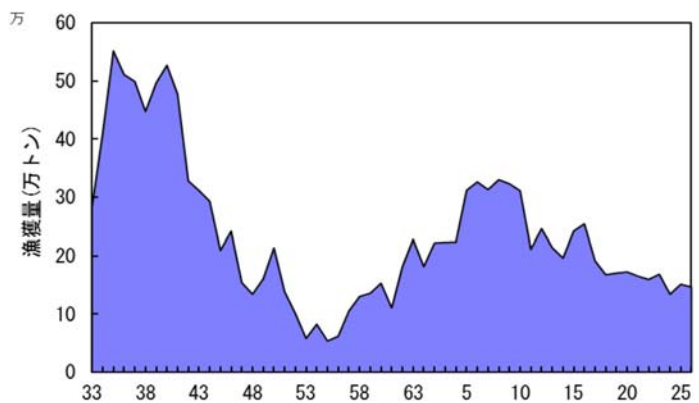


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、1月に甑西で漁場が形成されました。

薩南海域では、2～3月に立目崎沖、内之浦沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、マアジ仔・豆（1歳魚：平成27年生まれ）主体に、期全体で422トンの水揚げで、前年の27%及び平年の42%と低調に推移しました。

3. 県内の平成28年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔・豆（1歳魚：平成27年生まれ）で、マアジ小（1～2歳魚：平成27、26年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

漁獲の主体となるマアジ1歳魚が、1～3月に好漁だった前年よりかなり低調に推移していることから、来遊量は前年を下回り、平年並と考えられます。

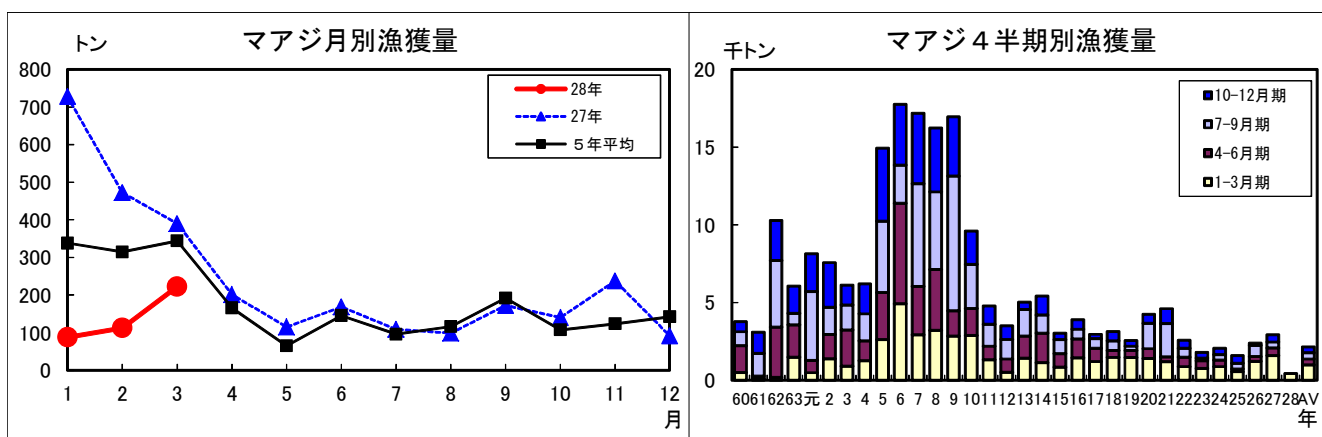


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値（AV）、平成28年3月23日までの水揚量を使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年には65万トンまで増加しましたが、その後減少傾向となり、平成26年は50万2千トンとなりました。

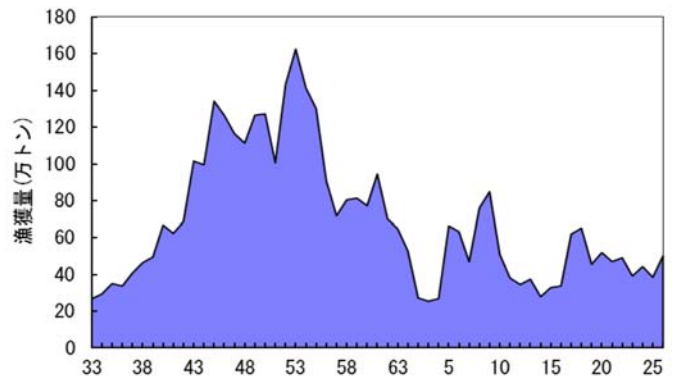


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、漁場が形成されませんでした。

薩南海域では、内之浦沖、佐多沖、立目崎沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ中小・小（1・2歳魚：平成27・26年生まれ）、中（2歳魚以上：平成26年以前生まれ）主体に期全体で3,428トンの水揚げで、前年の51%及び平年の51%と低調に推移しました。

3. 県内の平成28年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小、中（2・3歳魚：平成26・25年生まれ）で小（1歳魚：平成27年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

漁獲の主体となるゴマサバ2・3歳魚は、1～3月に低調に推移しましたが、近年の傾向から4～6月はある程度の漁が期待されることから、来遊量は前年・平年並と考えられます。

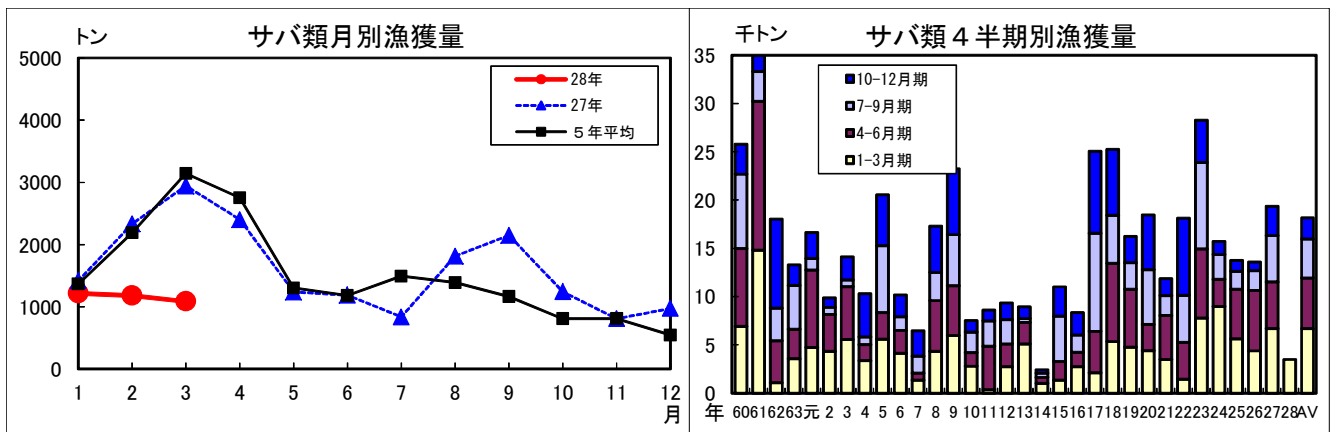


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年3月23日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

平成26年も20万トンと前年を下回ったものの、増加傾向が続いています。

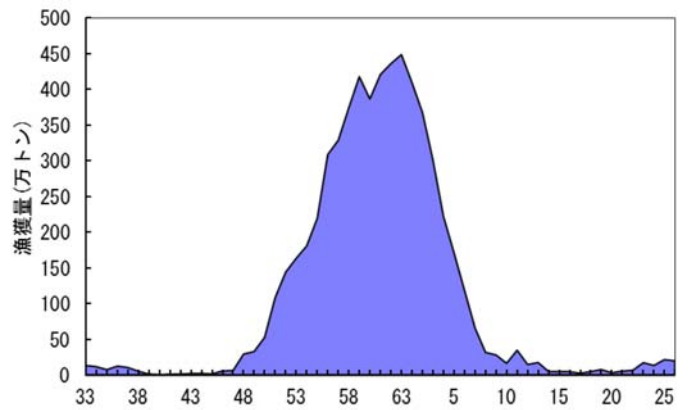


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 県内の平成 28 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦沖、立目崎沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小羽(1 歳魚：平成 27 年生まれ)主体 433 トンの水揚げで前年の 90 %、平年の 120 %でした。

北薩海域の棒受網は、13 トンの水揚げで前年の 32 %、平年の 40 %でした。

3. 県内の平成 28 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、4、5 月は小羽～中羽（1 歳魚：平成 27 年生まれ）、6 月は小羽（0 歳魚：平成 28 年生まれ）でしょう。

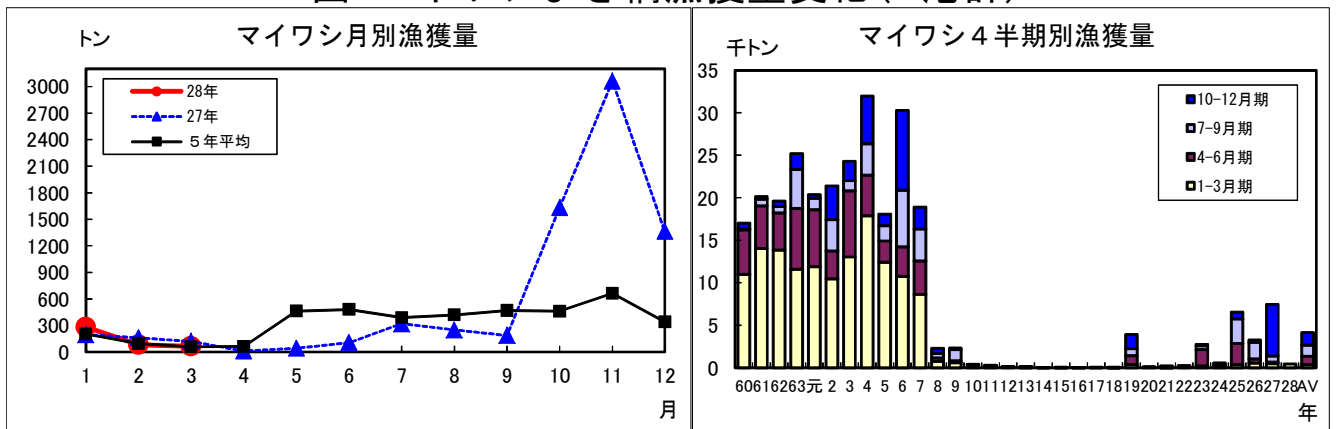
来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 27 年生まれ）は、2 月以降まとまった漁獲が見られていないため、来遊量は低調であった前年は上回るものの、平年は下回ると考えられます。

図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)



※平年値は過去 5 年（平成 23～27 年）の平均値 (AV)，平成 28 年 3 月 23 日までの水揚げ量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となりました。

平成26年は7万5千トンと前年を下回ったものの、高い水準を維持しています。

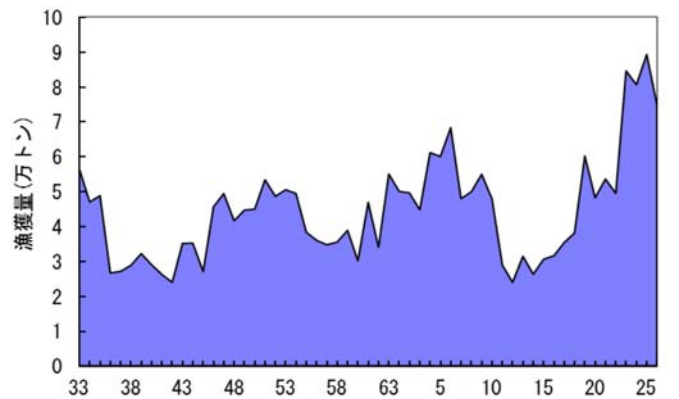


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

北薩海域のまき網では、牛深沖、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦沖、立目崎沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽～中羽（1歳魚：平成27年生まれ）主体に1,336トンの水揚げがあり、前年の255％、平年の117％でした。

北薩海域の棒受網では、175トンの水揚げで前年の138％、平年の119％でした。

3. 県内の平成28年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、期の前半は中～大羽（1歳魚：平成27年生まれ）、期の後半は小羽（0歳魚：平成28年生まれ）になるでしょう。

来遊量は前年を上回り、平年並でしょう

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる1歳魚（平成27年生まれ）は、昨年10月以降好漁が続いているため、来遊量は前年を上回り、平年並になると考えられます。

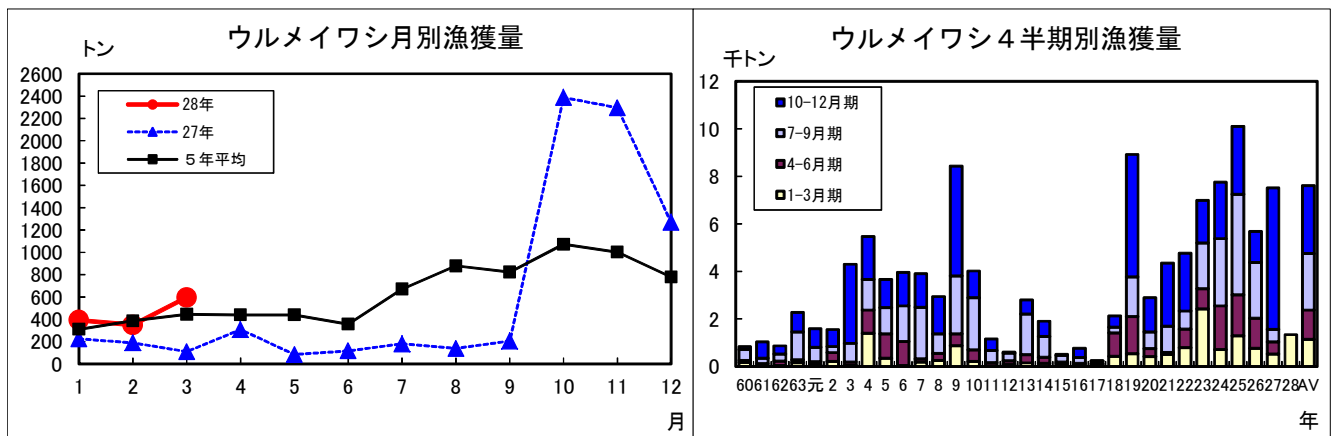


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値（AV）、平成28年3月23日までの水揚げ量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成26年は24万9千トンとなりました。

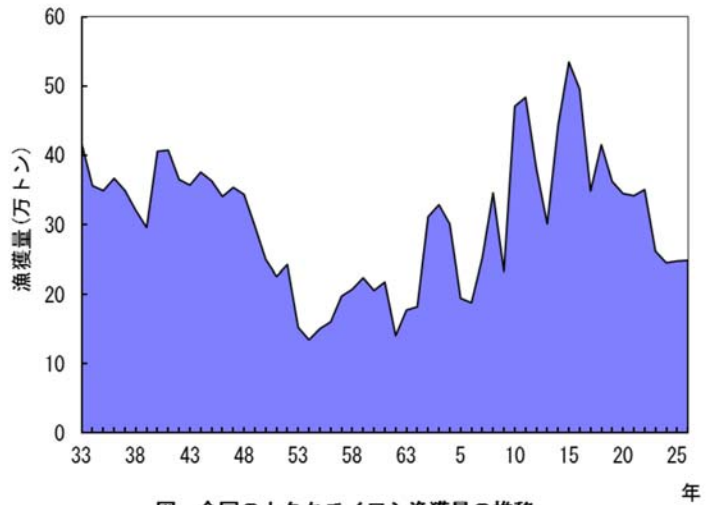


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成 28 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、牛深沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、大羽（平成 27 年生まれ）主体に 2,163 トンの水揚げで、前年の 766 %、平年の 1,487 %でした。

北薩海域の棒受網では、長島（内海）、川内沖に漁場が形成され、175 トンの水揚げで、前年の 199 %、平年の 147 %でした。

3. 県内の平成 28 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（平成 27 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

来遊量は近年好調で推移しており、前期の漁況も好調を維持していることから、前年・平年並となると考えられます。

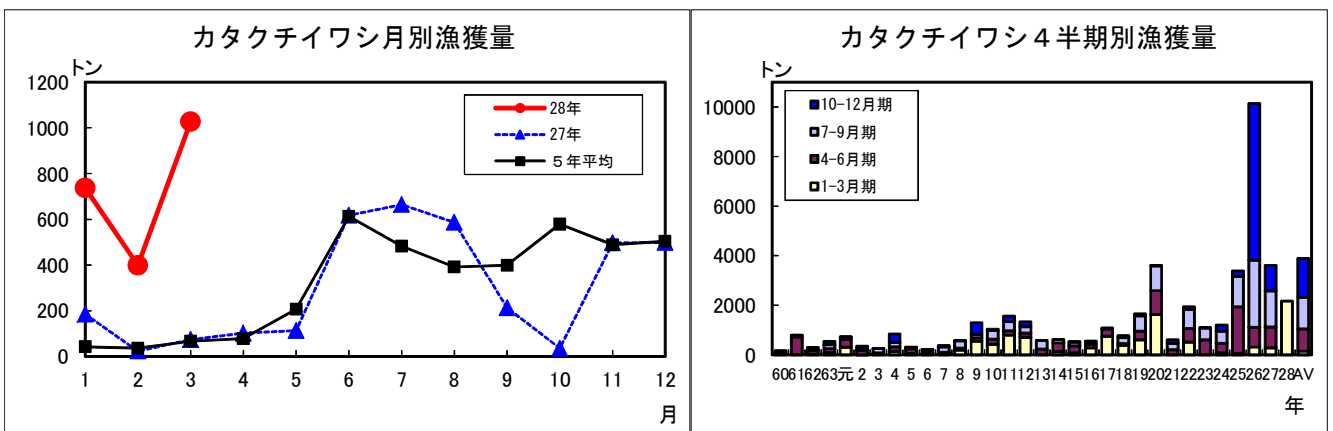


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 23～27 年）の平均値(AV)、平成 28 年 3 月 23 日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

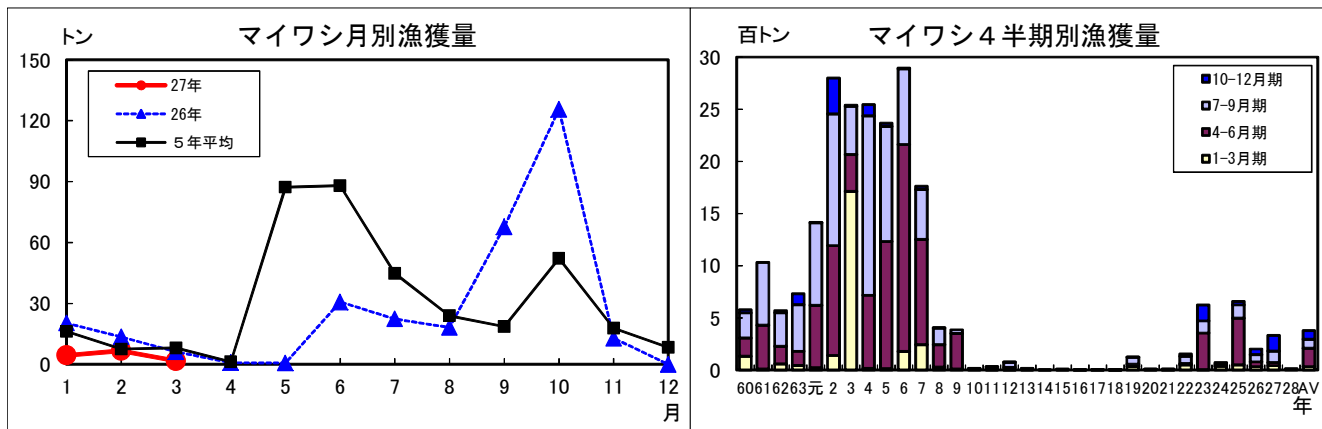


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

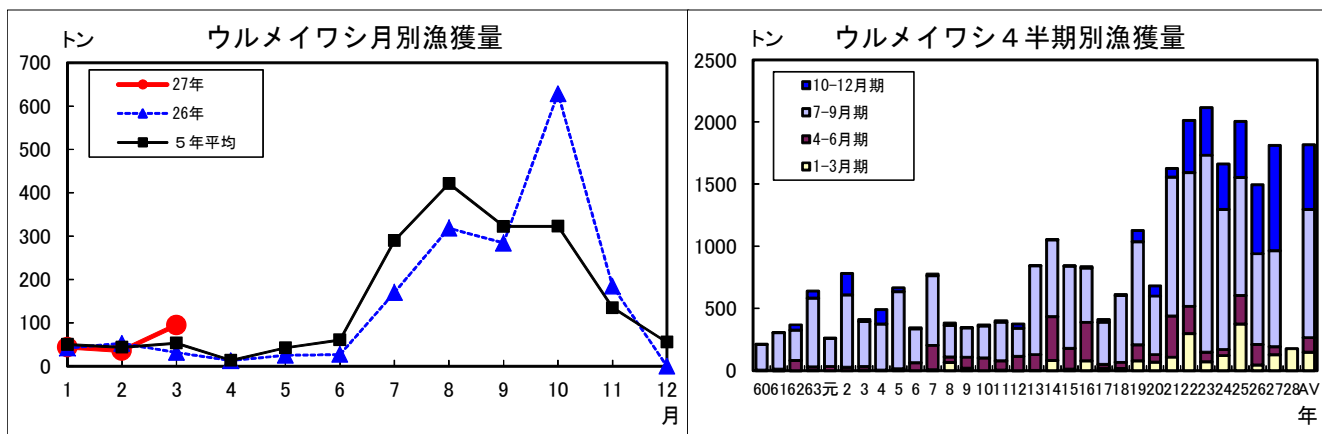


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

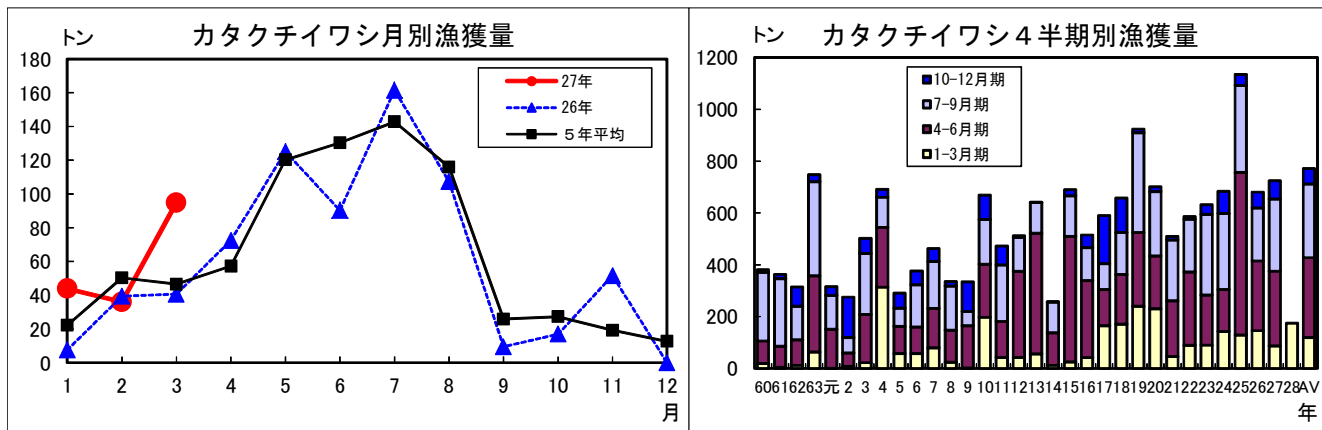


図 カタクチワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成23~27年)の平均値(AV),平成28年3月23日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンをピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成27年は1,281トンとなりました。

平成28年1～3月は、種子島南，臥蛇島，島間沖でクサヤモロ小，クサヤモロ中小主体の漁場が形成されました。

期全体で693トンの水揚げで、前年の371%及び平年の130%と好調に推移しました。

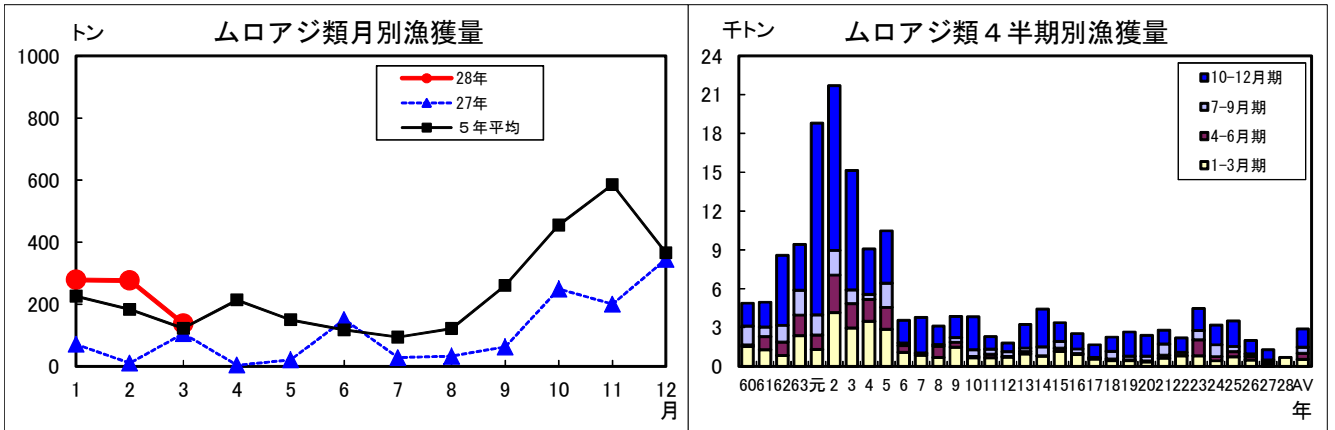


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年3月23日までの水揚げ量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンをピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成27年は987トンとなりました。

平成28年1～3月は、種子島東，屋久島南，志布志沖で小，豆主体の漁場が形成されました。期全体で1,091トンの水揚げで、前年の408%及び平年の499%と好調に推移しました。

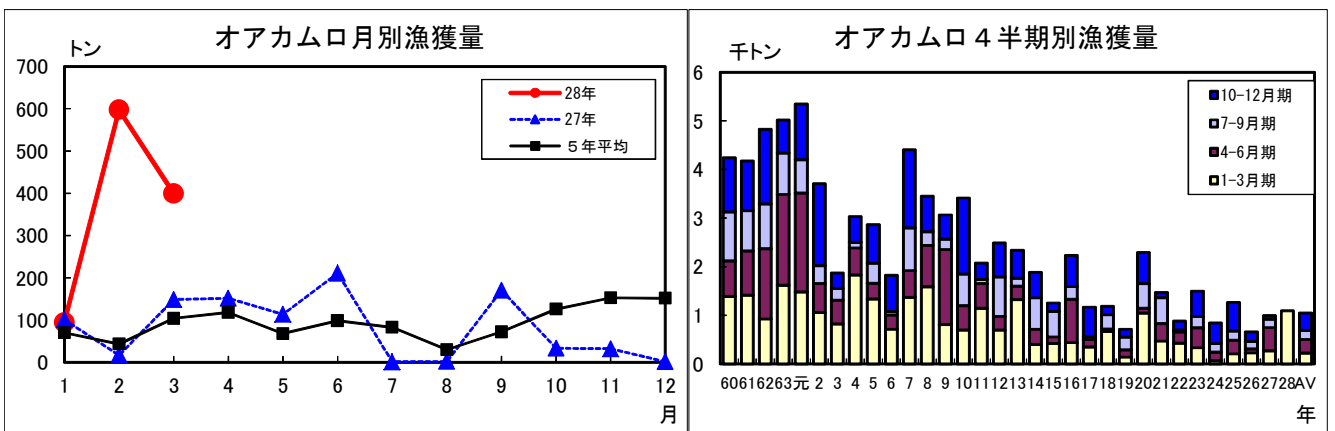


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年3月23日までの水揚げ量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成28年1～3月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

その後、低い水準ではあるものの増加し、27年は706トンとなりました。

平成28年1～3月は、串木野沖、野間池沖、甌西で豆、中主体の漁場が形成されました。期全体で184トンの水揚げで、前年の33%及び平年の83%と前年を下回り、平年並みでした。

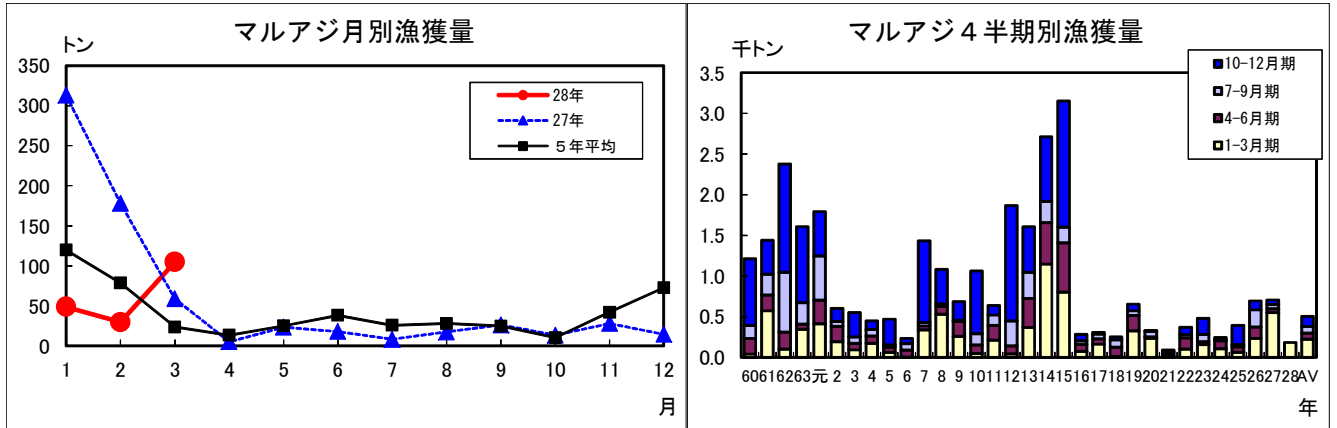


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年3月23日までの水揚げ量を使用